

令和7年度第3回茅ヶ崎市都市計画審議会

議題(2) 資料2

茅ヶ崎市事前復興まちづくり指針について

(報告)

事前復興
まちづくり指針



+

震災復興対策
マニュアル



茅ヶ崎市 事前復興まちづくり指針

都市部 都市政策課

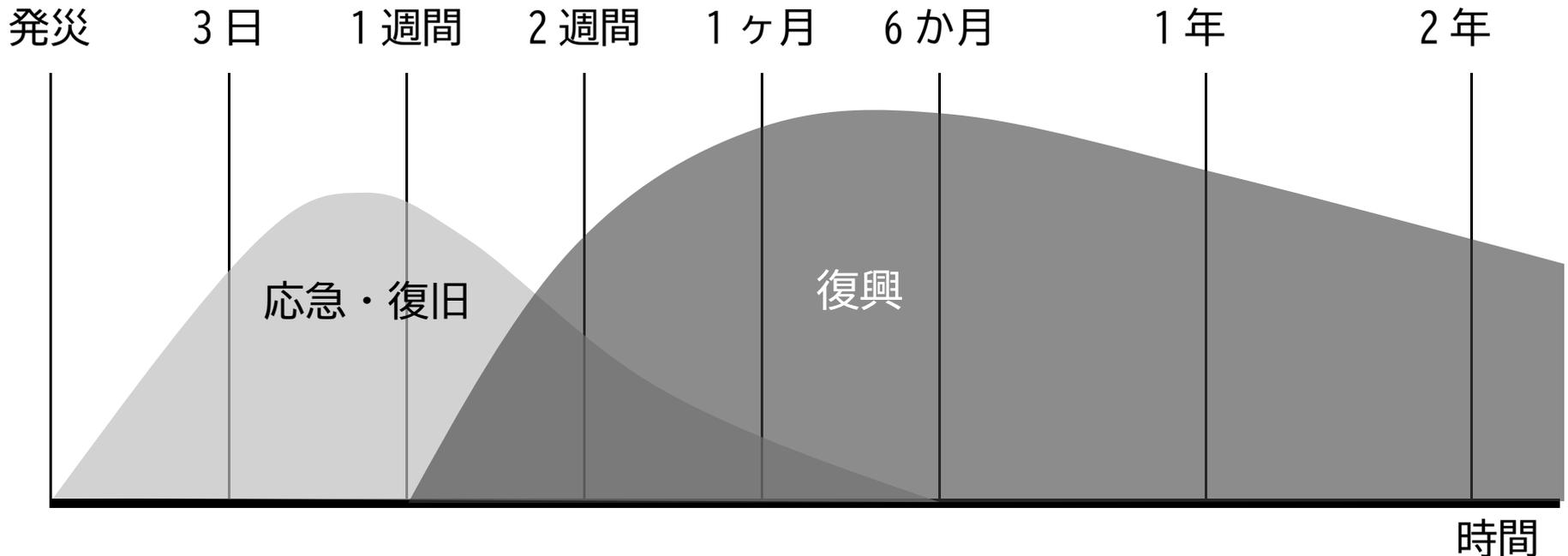


「応急」「復旧」「復興」の違い

応急：2次災害の防止、救急・救助など、被害の拡大を防止すること。

復旧：都市基盤施設等を発災前の状態にもどすこと。（被害が小規模な場合や防災、まちづくり、経済的な視点から見た場合、従前の機能回復が望ましいと判断できる場合。）

復興：都市基盤施設等を発災前の状態以上に防災性、機能性などを向上させること。（被害が中規模、大規模な時、復旧対策では、再び災害が発生した場合に、同じ被災状況になりかねないと判断される場合。）



事前復興の必要性

防災対策

被害を出さないようにハード整備を主に対策を行う

- ・ 防潮堤の整備
- ・ 建物の耐震化
- ・ 建物の不燃化 等

被害を完全に防ぐことは不可能

減災対策

予め被害の発生を想定した上で、被害を最小限に抑えるため、ハード・ソフトによる総合的な対策を行う。

- ・ 避難地、避難路の整備
- ・ ハザードマップの活用
- ・ 避難訓練の実施 等

復興事前準備

防災・減災対策を行っても大規模な自然災害は発生する。

その際、**迅速な復旧・復興を進めるための事前準備が重要。**

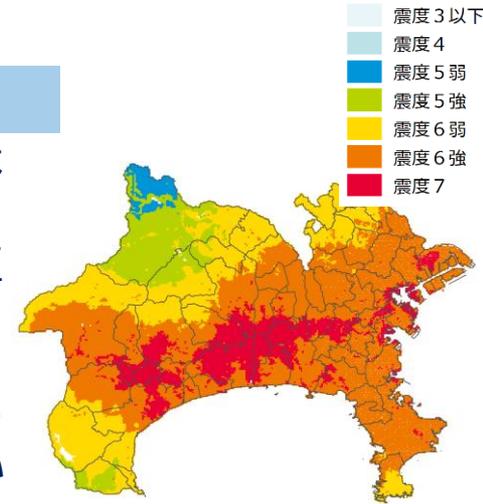
- ・ 復興の手順や進め方を事前に決めておく
- ・ 復興における将来目標像を事前に検討・共有

検討の背景と目的

検討の背景

いつ起こるか分からない巨大地震発生の危険性

- 近年、日本全国で震災が発生し、多くの被災自治体が長期にわたる復興を体験
- 本市では、発生確率が高い地震として、都心南部直下地震（市内想定震度5強～6強）、南海トラフ巨大地震（市内想定震度5弱～6弱）が想定
- また、発生確率は低いが、大正型関東地震タイプの地震が発生した場合、本市内の震度は6強～7と強い揺れが発生するとの想定



■大正型関東地震の震度分布

復興を前提とした事前準備の必要性

- 被災直後の混乱した中で、復興まちづくりをゼロから検討し始めるのではなく、平時から、望ましい復興まちづくりの方向性を検討・共有し、想定される復興課題に対して事前の備えをすることで、早期かつ的確な復興につなげることが可能になる

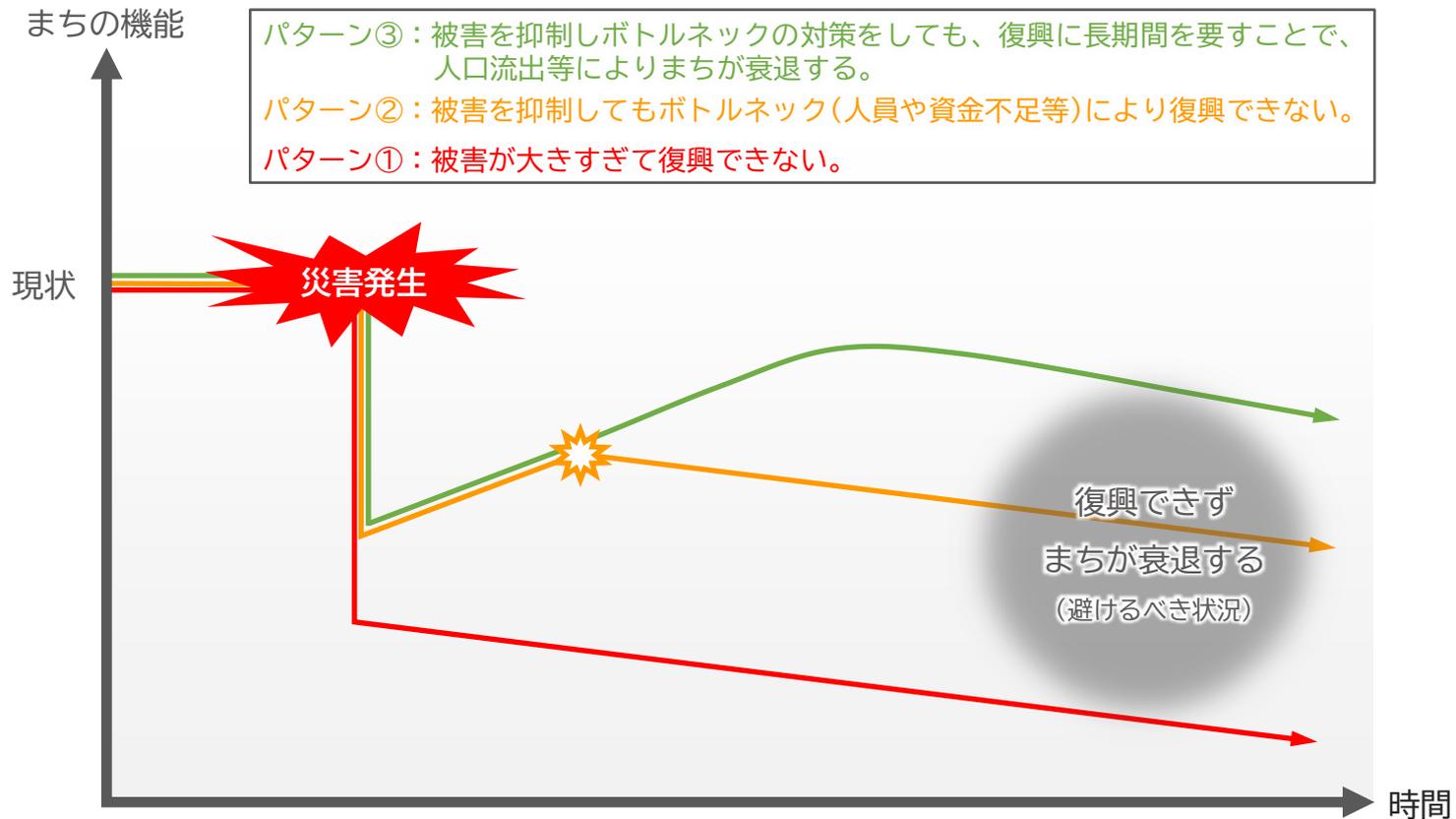
検討の目的

- 復興まちづくりを行う際に想定される課題を明らかにし、被災前に対策できるものについては段階的に解消する
- また、被災後の復興まちづくりが円滑に進められるように、平時から職員の対応能力を向上することや、住民と復興まちづくりについて話し合うこと等、事前復興の取組を継続的に進めていく

「事前復興」とは

- 「事前復興」とは、被災前から復興を視野に入れた事前の備えをしておくこと
- これまでは、「事前復興」が行われない中で被災し、復興に向けた取り組みの中で、様々な困難に遭遇し、より良い復興が出来ていません。

■一般的な復興の進み方のイメージ

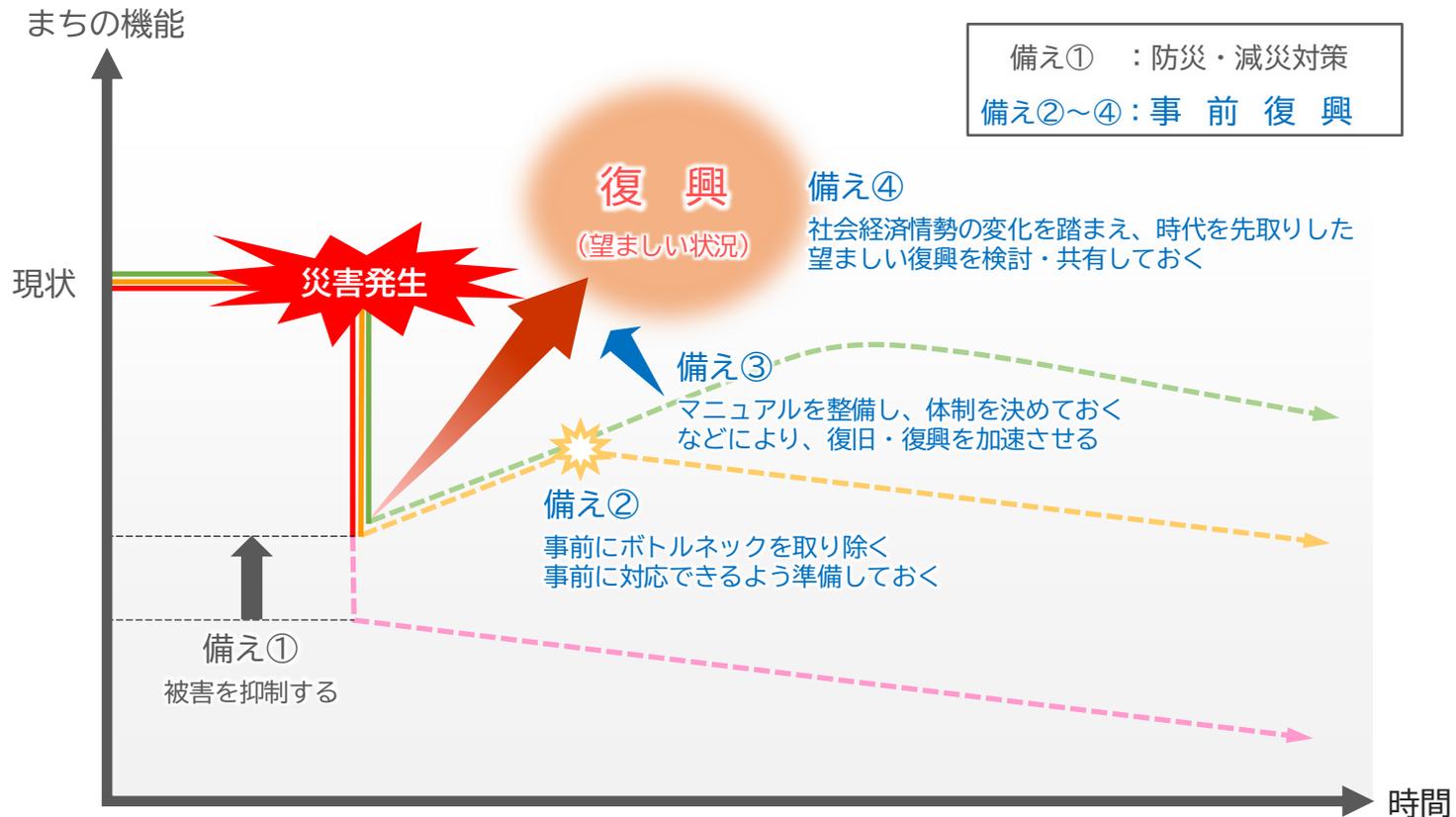


「事前復興」とは

より良い復興を成し遂げるための4つの備え

- ① 復旧・復興が可能となるレベルまで被害を抑制する
- ② 復興を阻害するボトルネックを事前に対策しておく
- ③ 復旧・復興を加速させるために事前にマニュアル作成や復興イメージトレーニングをしておく
- ④ 被災後の社会経済状況への適応を念頭に、復興により目指す目標等を事前検討しておく

■事前復興に取り組んだ場合の復興の進み方のイメージ



茅ヶ崎市の指針の特徴

- 被災後の復興を事前に計画するのではなく、不確実性の高い被災状況に対して、復興時に課題になりそうなボトルネックを事前に対策することを重視
- 検討した結果がゴールではなく、検討過程で明らかになった課題を共有し、行政住民が一体となって、課題に取り組むスタートを切るために作成

➡そのため・・・「計画」ではなく「指針」の名称を使用

■一般的な「事前復興まちづくり計画」



■本市の「事前復興まちづくり指針」



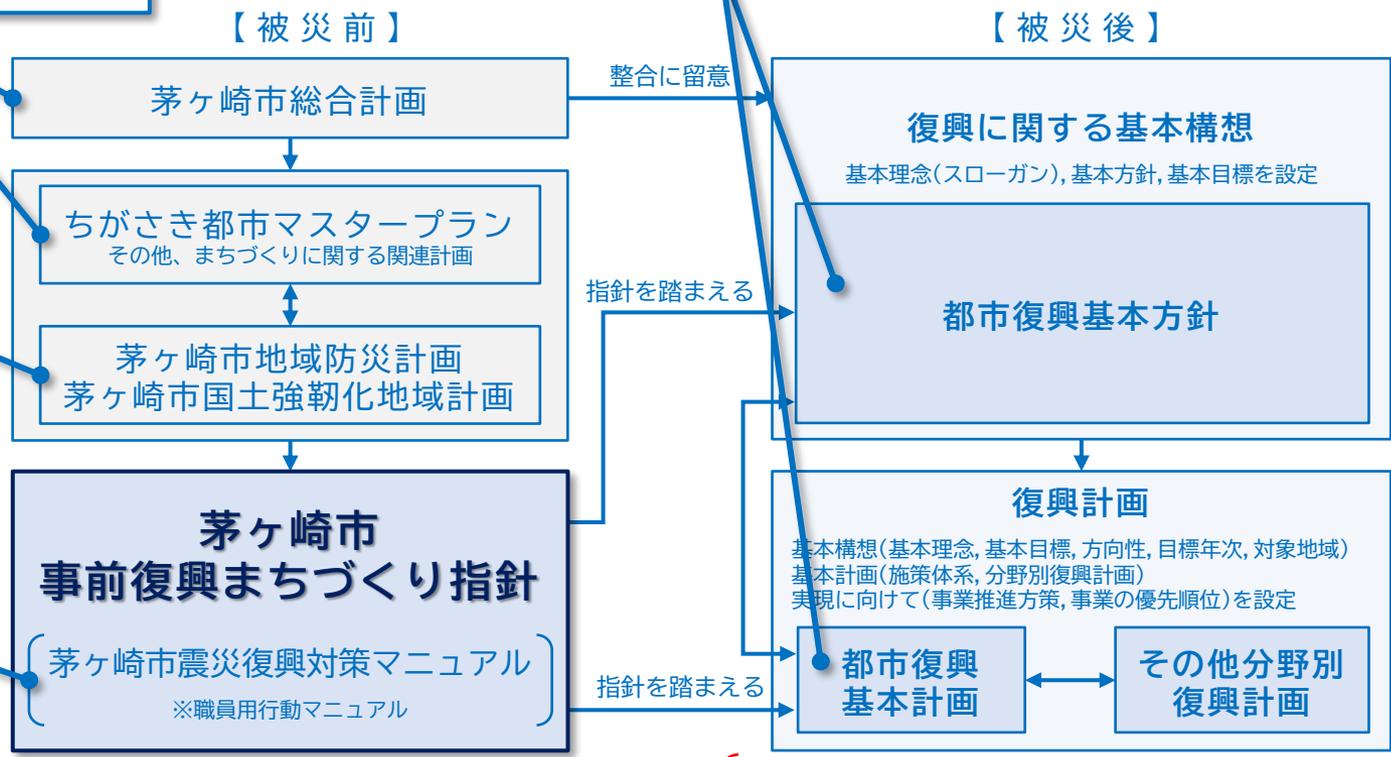
指針の役割と位置づけ

指針の上位計画となる計画や各種まちづくりに関する関連計画とも整合・連携

防災・減災とも整合・連携

市職員が円滑に復興業務を行えるように作成

基本方針や基本計画の策定を早期に進めるために活用



指針の役割

都市計画審議会の意見を聴く、又は、議を経る
(大規模災害からの復興に関する法律)

- ✓ 震災による被災状況と復興時の課題を把握することができる
- ✓ 本市が目指すべき復興の方向性を共有することができる
- ✓ 市街地復興事業の手法や選定基準を共有することができる
- ✓ 都市復興基本方針・都市復興基本計画のたたき台となる考え方を準備できる

アンケートによる市民意識調査

- 指針策定にあたり平成6(2024)年度と令和7(2025)年度に市民アンケートを実施
- アンケートを通じ、市民の災害リスクへの認識、復興の方向性や被災後の生活に関する意向等を概略把握

R6年度調査（プレ調査:WEBアンケート）

調査対象	20歳以上の市内居住者
調査期間	令和6(2024)年8月29日発信～9月3日回収完了
調査方法	民間アンケート調査会社の登録モニターからスクリーニング抽出 WEBフォーム上で回答
回収数	1,000サンプル確保

R7年度調査（本調査:市民アンケート）

調査対象	本市に居住する市民から無作為抽出
調査期間	令和7(2025)年5月末（投函）～6月30日（締切）
調査方法	調査票を郵送配布 回答は郵送による回収とWEBフォーム上での回答のいずれかを選択
配布・回収数	2,000通発送、回収513通（回収率26%）

庁内職員による復興まちづくり事前検討会

令和6(2024)年度に庁内職員による復興まちづくり事前検討会を開催（計5回）

目的

庁内関係職員が、本市の被災イメージと、それに伴う復興まちづくりの検討を疑似的に体験することで、復興事前準備の必要性と、事前準備として不足している課題を抽出・共有し、継続した復興事前準備の推進に繋げる

参加者

都市部をはじめ、建設部、下水道河川部といったまちづくりを担う部局のみならず、経営総務部、企画政策部、くらし安心部、市民部、経済部、福祉部、環境部など、復興時に役割を持つ部局から、23名の職員が参加



庁内職員による復興まちづくり事前検討会

開催プログラム

第1回

被災状況や事前復興に関する情報を共有

- 本市全体の想定被害の確認
- 復興事前準備の必要性に対する認識
- 被災時に想定される不安や課題の共有

第2回

被災後の市民の生活再建を具体的にイメージ

- 被災者の生活再建プロセスの検討
- 生活再建する上での課題や支援内容を検討
- 被災時の市民生活や再建方法等をイメージ
- 望ましい状況・避けるべき状況について検討

第3回

本市がどこまで・どのような復興をすべきか議論

- 望ましい状況・避けるべき状況に対応するための復興方策を検討
- 本市全体の復興の基本理念と基本目標を検討

第4回

具体的な市街地復興をどう進めるか議論

- 復興目標や被災者の生活再建を念頭に、復興事業を実施する市街地と手法を検討
- 市街地復興を進める際の課題をイメージ
- 被災者の立場から検討成果を検証

第5回

生活再建と復興事業を進めるプロセスや体制を検証

- 実施可能な復興プロセス、必要となる復興体制を検証
- 不安解消するために必要な事前準備を検討

R6年度

「茅ヶ崎市震災復興対策マニュアル」見直しへの反映

R7年度

「茅ヶ崎市事前復興まちづくり指針」策定への反映

住民による復興まちづくりワークショップ

令和7(2025)年度に市民を対象に復興まちづくりワークショップを開催（計3回）

目的

- ・ 市民とともにワークショップ形式で復興まちづくりに関する意見交換を行うことで、市民目線に立った市全体の復興の方向性を検討
- ・ 復興時における行政・市民の役割を、それぞれが理解した上で、行政へ期待する支援について把握
- ・ 本市の被害特性や市街地特性を理解してもらい、各地域で行っている防災・減災の取組に加え、復興まちづくりに関する事前準備の取組をスタートさせる

参加者

市民（26名） + 市職員（5名） + 事務局



住民による復興まちづくりワークショップ

- ワークショップ参加者だけの意見ではなく、広く市民の意見とするため、だれでも参加できるオンラインプラットフォームを開設し、ワークショップにおける意見に対する共感やさらなる意見を募集

第1回

対面
開催

令和7年
8/2(土)



【ガイダンス・まちを知る】

→復興事前準備の必要性を認識する

オンラインプラットフォームによる意見募集

8/7(木)10時
～9/5(金)17時



被災後の茅ヶ崎市の復興について意見投稿

第2回

対面
開催

令和7年
10/4(土)



【震災復興の課題を考える】

→モデル地区で具体的な復興について考える

オンラインプラットフォームによる意見募集

10/20(月)10時
～11/21(金)17時



市全体の復興の方向性について意見投稿

第3回

対面
開催

令和8年
1/17(土)



【被災と復興に備える】

→平時から取り組むべきことを考える

住民による復興まちづくりワークショップ

- ワークショップの開催時間では出し切れなかった意見、ワークショップには参加できない市民の方からの意見を一定期間継続的に募集



スマホの場合



パソコン等の場合

市民ワークショップ等で明らかになった市民意識

- ワークショップの配布資料、意見結果を掲載し、意見への「いいね」や、新たな意見を募集
- 「いいね」の数や、出された意見のキーワードから、市民意識を分析

テーマ・モデル地区別に
意見を投稿してもらおう

ワークショップの意見と、
新たに投稿された意見の
全てを参加者が確認可能

意見に対して「いいね」
ボタンが押された数

The screenshot displays a grid of public opinion posts on a digital platform. Each post includes a title, a brief description, a user profile, a date, and a 'いいね' (like) button. Red dotted arrows and callout boxes highlight specific features: 1. A callout box points to the 'いいね' button on a post, indicating that the number of likes is visible. 2. Another callout box points to the post title, indicating that users can view all opinions from the workshop and newly submitted ones. The posts cover various topics such as residential areas (松風台, 中海岸) and infrastructure (道路). The interface is clean and user-friendly, facilitating community engagement and feedback collection.

茅ヶ崎市事前復興まちづくり指針策定スケジュール

